



第20号
平成18年7月30日
編集・発行
日本杖道会

平成十八年度 上半期の行事を終えて

平成十八年も早いもので上半期が経過致しました。日本杖道会の一年間の行事は明治神宮の奉納演武会に始まって、筑波山神社の奉納演武会で幕を閉じます。今年の上期の主な行事は左記の通りですが、その中のいくつかについて所感を述べてみます。

一月七日

明治神宮奉納演武会

(日本杖道会主催)

一月十四日

日本杖道会本部道場鏡開き式

(蔵脩館主催)

二月二十五日～二十七日

平成十八年第一回武道合宿稽古会

(日本杖道会主催)

五月一日

第四十九回全国杖道大会

(神道夢想流杖道振興会主催)

五月二日

第一〇二回全日本剣道演武大会

(京都大会)

(全日本剣道連盟主催)

五月二十七日～二十九日

浪合神社奉納

第五回各流武道演武大会

(日本杖道会主催)

最初に明治神宮の奉納演武についてですが、この演武会は歴史が古く、戦前の大日本杖道連盟時代から続いていると師から聞いております。

この演武会では、杖道及び杖道の付随武道(霞神道流剣術、一心流鎖鎌術等)はもちろんのこと、居合道、薙刀術、銃剣道等幅広い武道が披露されます。

毎年正月七日に実施致しておりますが、今年には土曜日ということもあり一時間半の演武時間の間、数多くの参拝客の方々が足を止め

私どもの演武に見入ってくださいました。神宮より師に対して何人の見学者があったかとの質問が寄せられたと後日聞かされました。(数えてはいないので確かな人数はわかりませんが、少なくとも千人以上はいたであろうと勝手に推測しております。)

また、この演武会を見て杖道に入門された方もおり、杖道のみならず日本武道の普及発展に少なからず貢献している催しであると思えます。この由緒ある演武会を絶やすことなく後世に伝えていくことが私どもに課せられた責務であると痛感致しております。

次に第四十九回全国杖道大会について述べてみます。

この大会は、もともと東京、大阪、福岡等、各地の杖道家が京都大会で演武する前に当地(最初は大阪と聞いております)に集まり稽古したのが始まりと師より聞きました。現在は大会形式となり、神道夢想流杖道振興会の主催により催行されております。

段外(少年を含む)から七段の部までに分かれて勝敗を競いますが、本大会の特徴は、杖道の演武のみが判定の対象となることです。打ち太刀は原則として同段位以下ですが、上級者であっても許されず。

杖道連盟の大会では必ず同段位同士でペアを組まなければなりません。本大会は一人でも参加出来、ペアに恵まれず参加を断念する必要が有りません。杖道発展のためにはこのような運営方法をどしどし取り入れていく必要があると考えております。

四十九回を数えるこの大会ですが、師の神之田師範は、現在は神道夢想流杖道振興会の会長として、また会長就任以前は事務局長として第一回大会から運営に当たられて来てお

ります。その関係で事前準備は全て東京で行っております。師の指示のもと、門人総出で準備から大会運営までを手伝いますから、入門して日の浅い人は非常に貴重な体験をし、また修行になったことと思えます。

最後に浪合神社奉納第五回各流武道演武大会について少し述べてさせていただきます。

昨年の一心流鎖鎌術発祥の聖地記念碑建立に続き、意義深い大会でありました。と言うのも、私事ではありますが、浪合神社境内にて山口氏、丸山氏、芳賀氏と共に一心流鎖鎌術の免許を拝受したからであります。

流祖、慈恩念大和尚が眠り、尹良親王はじめ南北朝時代の兵が眠る歴史的にも由緒あるこの聖地で師より免許を拝受したことに、この上ない感激と免許者に相応しい修行者になるべく稽古に励まなければとの思いを新たにしました次第です。

夢想権之助神社(大宰府)、筑波山神社(茨城県)、真壁(茨城県)そして長野県下伊那郡阿智村浪合神社、これらの聖地を後進に伝えていく責務を痛感した平成十八年の上期行事でありました。

事務局長 阿部 修

霞神道流剣術、内田流短杖術、刺股術の教本を鋭意作成中です。御期待ください。

教本作成中



